

令和7年 明治大学戦没学徒忠霊殿慰霊祭のご報告

7月10日、新潟縣護國神社において令和7年 明治大学戦没学徒忠霊殿慰霊祭を執り行いました。今年はお来賓として下記の皆様のご臨席を賜りました。

学校法人明治大学	理事長	柳谷 孝 様
明治大学校友会	会長	北野 大 様
明治大学校友会	相談役	徳丸 平太郎 様
学校法人明治大学	顧問	長吉 泉 様
学校法人明治大学	大学支援部長	渡部 眞也 様
学校法人明治大学	大学支援事務長	渡 佳和 様
学校法人明治大学	校友連携事務長	竹内 亮 様
学校法人明治大学	生田学生支援事務長	幕内 達二 様
新潟縣護國神社	禰宜	伊藤 豊彦 様
明治大学新潟県父母会会長		小林 芳紀 様
明治大学新潟県父母会副会長		曾我 悟 様



真夏日となった今年の慰霊祭。祝詞に続き、戦没学徒 324 柱の御霊に対し、謹んで明治大学校歌を三番まで奉納しました。指揮は今年も応援団 OB 真柄雄一氏（平3法）が務め、「フレフレ 明治」のエールが高らかに真夏の境内に響き渡りました。その後、参列者全員による玉串拝礼と続き、最後に柳谷理事長よりご挨拶を賜りました。

柳谷理事長は戦後 80 年にあたり、先輩の御霊を慰霊し、山の上ホテルの取得など大学近況を報告するとともに、「令和の時代においても争いが繰り返される中、明治大学は、戦争の悲惨な現実を決して風化させることなく、人類の平和に貢献する大学として、一層発展させる」と誓いを新たにされました。

会場を移して行われた直会では、高橋淑浩 新潟県支部長（昭49商）の開会挨拶に続き、明治大学校友会 北野会長、新潟縣護國神社 伊藤禰宜、学校法人明治大学 長吉顧問よりご挨拶をいただきました。

北野会長は「当時の大学進学率などを考えれば、戦火に散った先輩方は本当のエリートだった。その先輩方の御霊に報いるために、明治大学校友会は、大学と力を合わせ、明治大学を一層発展させる義務がある」と述べられ、さらに「この慰霊祭を未来永劫、続けていかなければならない」と結びました。

本忠霊殿が建立された 2006 年、理事長を務めておられた長吉顧問は、「毎年参加するたびに、心やすらかな気持ちになる」と忠霊殿へ





の思いを述べられ、自ら揮毫された忠霊殿の額にまつわる貴重なエピソードとともに、これまたいへん貴重な揮毫の原書を披露されました。

明治大学校友会 徳丸相談役より献杯のご発声をいただき、しばし歓談。締めにあたり、神林裕 新潟地域支部長（昭 50 政経）と学校法人明治大学大学支援部長 渡部様による万歳三唱エール交換が行われました。

最後に、西澤哲司氏（昭 55 商）のリードで校歌 1 番を斉唱。大竹雅春 長岡地域支部長（昭 60 商）より参列者の「明治愛」をたたえる言葉が送られ、閉会となりました。

【後記】

▼連日真夏を思わせる暑い日が続く中、今年も 7 月 10 日を迎えました▼今年も朝ドラ（あんなぱん）では戦争が描かれています。高橋支部長はこの中の場面を引き合いに、学徒出陣の「理不尽」を述べられ、北野会長も、戦後日本が戦禍に見舞われなかったことを幸いとしつつ、戦没学徒の無念に心を寄せられました▼今年、初めて忠霊殿に置かれた嶋清一さんの新聞記事をまじまじと読みました。夏の甲子園。全 5 試合完封、準決勝・決勝でノーヒットノーラン達成と空前絶後の大投手。

そして嶋さんは、戦前最後の明治大学野球部主将となり、戦火に散りました。その無念たるや... ▼終戦から 80 年、学徒出陣から 82 年が経過した今日、1 人ひとり戦争への思いに違いはあると思います。慰霊祭に参加して以来私は、「7 月 10 日とは、先輩方の「無念」を思い、校歌に歌われる「権利自由」が奪われてはならないと再び思い起こし、世の中を見つめなおす日」と思うようになりました。これからも 7 月 10 日を大切に受け継いでいきたいと思っています。（杉本記）

